

令和 5 年度
(2023 年度)

自己点検・評価報告書

令和 5 年 (2023 年) 4 月 1 日から
令和 6 年 (2024 年) 3 月 31 日まで

令和 6 年 (2024 年) 4 月 25 日

学校法人吉田学園
吉田学園情報ビジネス専門学校

■令和5年度 自己点検・評価について

〈説明〉

本校が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、校訓や学校の目標と教育の実態とを照らし合わせ、自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行いました。

1. 対象期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

2. 委員会開催

第1回 令和6年4月11日（木）

第2回 令和6年4月25日（木）

3. 実施方法

(1) 実施組織： 自己点検・評価委員会

委員長：橋本 直樹 吉田学園情報ビジネス専門学校 校長

委 員：川東 博之 吉田学園情報ビジネス専門学校 クリエイター系学科学科長

柏木 典大 吉田学園情報ビジネス専門学校 エンジニア系学科学科長

千葉 昌弘 吉田学園情報ビジネス専門学校 ビジネスキャリア学科学科長

長内 昌志 吉田学園情報ビジネス専門学校 学校事務部 部長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：学則、教務内規、学生便覧やシラバスに記載されている教育目標や指導規定、中期学科計画などと照らして各種評価を行い、自己点検・評価委員会を開催し、学校として自己点検・評価を取り纏めています。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目標

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の受け入れ募集

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

(11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

1 学校の教育目標

教育理念にある「実践型で人間性豊かな人財の育成」を根幹に、次の能力を総合的に備えた人財を育成します。

〔知的・能力的要素〕

「基礎学力」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」や「創造力」

〔社会・対人関係力的要素〕

「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」

〔自己制御的要素〕

上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

入学者目標：情報系入学者 140 名 ビジネスキャリア学科 20 名

1 情報系学科

- エンジニア系学科のオープンキャンパス参加者の増員を図るため、先端企業からの講演の数を増加させ、職業の魅力を伝えとともに、本校と業界との関係性を強調する。
- ICT・ゲーム・CG 業界の職業が理解できる制作物を作成して、本校の強みとリンクさせ、募集活動を推し進めていく。
- 学校で一体となった学生募集活動を推し進めていく。各種会議での情報共有や施策案とその実行などを図る。

2 ビジネスキャリア学科

- 留学生支援部の施策に基づき計画、対策を実施

在籍率目標：学校全体の 95.0%以上

1 情報系学科

- 成績不振者を減少させ、モチベーション低下を防ぐ取り組みを模索していく。
- 出席不振者に対して、担任から役職者への段階的指導の継続をする。

- 多くの休退学要因である「学校生活・学業不適応」の対策として、総合事務局と連携しながら「オンライン健康相談」について利用促進を行う。
 - 教育力低下の防止のための対面授業や ICT 授業等の適切な運営
- 2 ビジネスキャリア学科
- 当該年度は在籍者 2 名

就職率目標：

- 1 卒業生 90%以上
 - 2 専門就職率
 - クリエイター系学科 70%以上
 - エンジニア系学科 95%以上
- 自己効力感、自己肯定感を醸成するため、昨年度から取り組んでいる「学科別教育基軸事例検討会」の結果を職員会議で共有し他学科にも活かせるようにし、検証及び実施を継続する。
 - 2022 年度に見直し取り組んだ、就職前年度学生を対象とした就職関連行事を更に見直し、学生の満足につながる就職ができるよう効果的に運営する。
 - 留学生の就職決定状況を改善するため、留学生受入れ企業の調査開拓を行う。

資格取得率目標：

- 1 情報処理技術者試験（FE）合格率 30%以上
 - 「科目 A」試験免除が本試験合格者数に大きく影響することから「科目 A」試験免除の合格に向けたモチベーション向上のための学校全体の雰囲気づくりを継続して実施する。
 - 新試験方式へ移行したため、改めて試験傾向や内容を分析してその対策を実施。「科目 A」試験免除の合格を軸とした試験対策に移行する。
- 2 その他の資格は全国平均合格率以上
 - 昨年の結果を分析し、合格率向上に向けた適切な運営を徹底する。

活動目標：

- 1 ICT 教育と学修管理システム（LMS）を用いたより高い学習効果の実現。
 - 導入効果が得られる科目授業を選出し学科特性に応じた適用実績をつくり、各学科毎に推進をはかる。また、推進 PRJ による学内展開と学園内の情報共有をすすめる
- 2 コンプライアンスの徹底、業務の効率化、新学籍システムを用いた業務の見直し、業務プロセスの改善
 - 昨年度から取り組んでいる、本校業務改善・業務プロセスを見直し完成させる。更に適切な運営フェーズに移行し、働き方改革を実現する。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(1)-1	学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
(1)-2	学校における職業教育の特色は何か	4
(1)-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
(1)-4	学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
(1)-5	学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
(2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
(2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(3)-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
(3)-2 教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
(3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
(3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
(3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
(3)-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
(3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
(3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
(3)-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
(3)-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
(3)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
(3)-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
(3)-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
(3)-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

(3)-11 エンジニア系学科教員の不足

② 今後の改善方策

(3)-11 2025 年度からの新学科編成に対応し、2024 年度から教育内容の充実に向け、さらなる教員確保に努める。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(4)-1 就職率の向上が図られているか	3
(4)-2 資格取得率の向上が図られているか	3
(4)-3 退学率の低減が図られているか	3
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

(4)-1 卒業生就職率は目標を達成したが、専門就職率の向上は更なる高みを目指す必要がある。

(4)-2 資格取得率は向上したが、更なる成果を目指す。

(4)-3 以前より取り組んでいる休退学防止の施策を継続したことで効果は得られているが、わずかに目標達成には至らなかった。

② 今後の改善方策

(4)-1 専門就職率の目標達成に至らない要因として、学生の業界就職への意欲が薄くなっていることにより、就職活動の動きに結びついていないことがあげられる。学校全体で踏込んだフォローが必要と考える。また、クリエイター系企業はスキル重視から人間性重視へ変わり、面接のポイントとそのハードルが上がったことも要因の一つと考えられるため、新たな対策を講じる。

(4)-2 受験資格の中でも特に難関となる国家資格取得率向上に向け、試験合格に向けたモチベーション向上のための取り組みと、教務内における分析作業の実施を行う。

(4)-3 オンライン健康相談をさらに利用促進するとともに、学校全体として学生の自己効力感・自己肯定感を醸成する取り組みを、現在実施している。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
(5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4
(5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
(5)-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
(5)-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
(5)-6 学生の生活環境への支援は行われているか	4
(5)-7 保護者と適切に連携しているか	4
(5)-8 卒業生への支援体制はあるか	4
(5)-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
(5)-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(6)-1	施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
(6)-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
(6)-3	防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(7)-1	学生募集活動は、適正に行われているか	2
(7)-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
(7)-3	納付金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

(7)-1 留学生入学者数が増加に転じたが、高校新卒者の入学者目標を達成できない状況となった。

② 今後の改善方策

(7)-1 オープンキャンパス参加者の出願率の改善に向けた対策を取るとともに、学生募集に係る学内分科会等を立ち上げ、募集活動に意識的に取り組める風土の醸成に努める。

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
(8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
(8)-3 財務について会計監査が適正に行われている	4
(8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
(9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
(9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
(9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
(10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
(10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(11) 国際交流

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	4
(11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
(11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
(11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

① 課題

(11)-4 留学生の学習効果や就職実績などにおいて、特記すべき実績が少ない。

② 今後の改善方策

(11)-4 留学生の就職決定状況を改善するため、留学生受入れ企業の調査開拓を行う。また、留学生の能力や特性を踏まえた授業内容の組み立てやフォロー体制の充実が必要である。

③ 特記事項

特になし

総 括

資格取得ならびに就職へのモチベーションをいかに維持するかが新たな課題として見えてきた。コロナ禍により蓄積された ICT 機器を利用した学習効果を高めるための効果的な教育資産形成の取り組みは継続しつつ、社会、業界の求める人財の育成と輩出を行っていく環境を整えなければならない。

社会のニーズに合致した教育活動を行うために、2025 年度から校名変更と新学科編成となる予定であり、今後も、自己点検における各項目の達成に向けた施策とともに、新たな学びの場の設置に向けた準備を行っていく。